

3.4 利用環境の整備

3.4.1 目的と概要

減災情報共有プラットフォーム利用支援を行う為の環境整備を行う事を目的とする。まず、減災情報共有プラットフォームへ参画する為の共通の通信規約（プロトコル）を策定し、説明会を開くと共に仕様を公開した。さらに、プラットフォームに参画する為のツールとして減災情報共有データベースと通信インターフェース・ライブラリを公開し、関係機関と接続テストを行った。

3.4.2 減災情報共有プロトコル

(1) プロトコル仕様発表会

プロトコルは、広く利用してもらう必要があるため、平成17年5月20日、川崎ラボラトリーにおいて、MISP仕様の発表会を開催した。この発表会には、ウェブページに掲載した開催案内により、民間企業を主とする18機関37名の参加があり、内17名からMISPが有効だというアンケート回答が得られた。（図3.4-1）



図 3.4-1 減災情報共有プロトコル仕様発表会（H17.5.20，川崎ラボラトリー）

(2) ウェブページによるプロトコル仕様の公開と一般コメント募集

発表会と同時に MISP 仕様をウェブページに公開し、平成17年8月26日から平成18年3月31日までの間、ウェブページを通じて一般コメントを募集した（URL：<http://www.kedm.bosai.go.jp/project/info-share/infosharp/index.html>）。その後、シンポジウム等でも報告した。今後は、実証実験に向けた準備を通じて必要な改良を加えていく。

（図 3.4-2）

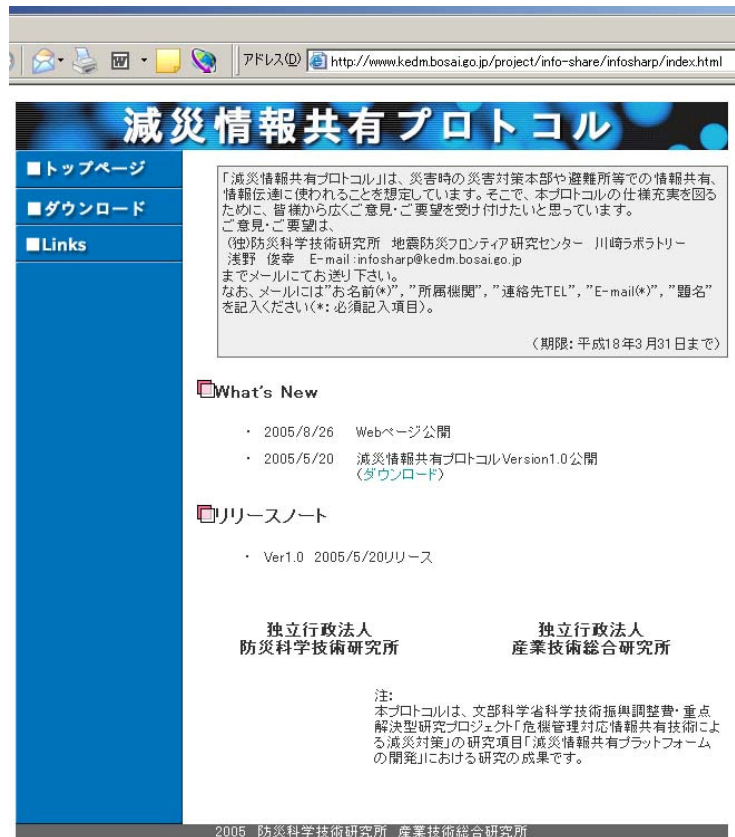


図 3. 4-2 減災情報共有プロトコルの一般コメント募集ウェブページ

3. 4. 3 減災情報共有データベースと通信インターフェース・ライブラリ

減災情報共有プラットフォームのコアとなる情報共有ハブとして、同プロトコルに準拠した減災情報共有データベース、DaRuMa の実装を開始し、アルファバージョンを完成させた。また、MISP による情報共有サブモジュールの構築を容易にするため、DaRuMa へアクセスするための通信インターフェース・ライブラリを整備した。

(1) 減災情報共有データベース

昨年度から開発してきた情報共有のためのデータベースシステム Java 版 gggd をベースに、新たなデータベースシステム DaRuMa を開発し接続テストを行った。

DaRuMa システムは以下から構成される。

- Ruby 版 DaRuMa Server (ベータ版)：MISP に準拠してデータベース機能を提供する。
- Java 版 DaRuMa Server(アルファ版)：MISP に準拠してデータベース機能を提供する。

(2) 通信インターフェース・ライブラリ

減災情報共有データベースシステムや減災情報共有プラットフォームに参画する為の通信インターフェース・ライブラリを公開し接続テストを行った。

通信インターフェース・ライブラリは以下から構成される。

- Ruby 版クライアントツールセット（ベータ版）：データベースと通信回線を開き，GML で記述された地物データやスキーマを MISP に準拠したデータベースに登録・検索する機能を提供する。
- Java 版クライアント作成用ライブラリ（アルファ版）：データベースと通信回線を開き，MISP に準拠したデータベースに登録・検索する機能を利用するための JAVA API を提供する。（図 3.4-3 の①）
- C++版サーバ・クライアント共通ライブラリ（スタティックリンクライブラリ版）：MISP に準拠した XML 形式のデータを用いて電文構成・分解する API を提供する。（図 3.4-3 の②）

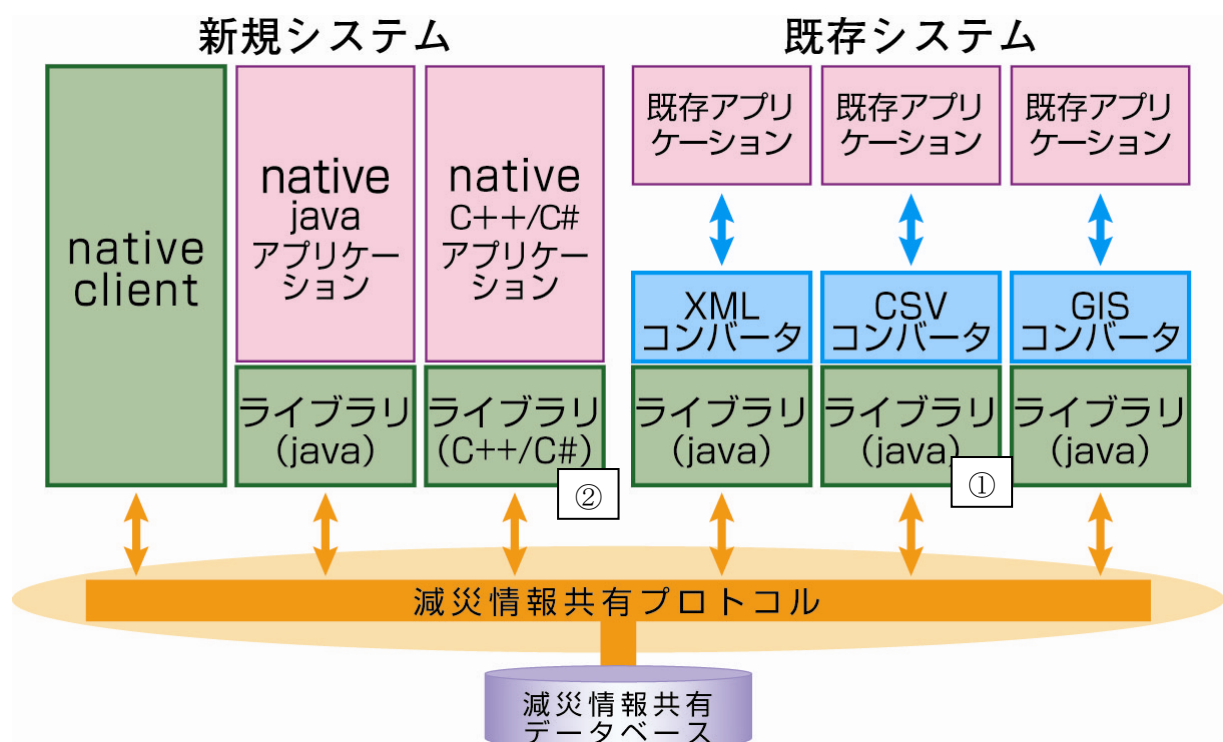


図 3.4-3 減災情報共有プロトコルの一般コメント募集ウェブページ

3.4.4 まとめ

減災情報共有プロトコル（MISP）の仕様説明会では多くの機関に興味を示していただいた。減災情報共有プラットフォームへ参画する為の環境整備として，減災情報共有データベースと通信インターフェース・ライブラリを公開し，関係機関と接続テストを行った。今後も，利用者からのコメントを反映し，プロトコル・ツール群の改良と使い勝って向上および利用促進のための環境整備を行っていく。